**第6回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成28年3月10日（木）10:00～12:00

場所：府庁本館5階　正庁の間

◆出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

◆欠席委員（敬称略）

大輪会事務局　大西　弘薫

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆傍聴者　1名

◆概要

1．開会　10:00〜

2．前回のふりかえり　10:05〜

3. 協議案件 4件　 10:10〜

　　①持込み型プログラムについて

　　②向井池北側エリアの修景について（どんぐりの森づくりプログラム）

　　③公園の評価について

　　④利用者層の拡大について

4. 報告案件　5件

①プログラム報告（1〜2月）

　　②向井池東側エリアについて（境界柵について）

　　③企業の森活動について

　　④平成27年度工事の進捗について

　　⑤その他

5. 閉会　　　　　　12：00

＜**協議案件1：持込み型プログラムについて**＞

事務局より持込み型プログラムについて説明。

・綿づくりの企画について、大阪綿業会館では種を配布しているので利用するとよい。綿摘みのプログラムを行っている団体や糸車などの道具を持っている団体と連携したらよい。糸紡ぎなどのプログラムにつながれば、おもしろい。綿の出来具合をみて考えるとよい。

・郷の棚田の空きスペースは、レンゲ畑なども検討していただきたい。ソバやヒマワリが終わったあとに植えるのもよい。レンゲは花飾りを作るなどの昔ながらの遊びがあるので、来年の春先のイベントにできる可能性がある。

・次年度以降の持込み型プログラムは、今年度に審査のノウハウが蓄積されたことを踏まえて、事務局で審議した上で報告案件として運営審議会に提出する形とする。

・ただし、新しいタイプの活動など判断に迷う場合は、情報を蓄積していく必要があるため、運営審議会で審議を行う。

＜**協議案件２：向井池北側エリアの修景について（どんぐりの森づくりプログラム）**＞

事務局より、どんぐりの森づくりプログラムについて説明。

・企業の森エリアにある大きなコジイも、ひろい意味ではドングリが採れるので、対象に含むことができる。

・苗木の育成に関しては、簡単なパンフレットのようなものを作るとよい。特に発芽について解説する必要がある。ドングリは植えた年の間に芽が出る種もあれば、次の年に出る種もある。また子どもたちがよく知っている朝顔とは違い、双葉が出ない。そのような内容を解説しておくべきである。

・植生回復については、例えばアラカシの単相林になってしまったという事例もある。極力多様性のある森を目指したい。

・区画はグループごとに割り振る予定である。様々な種類を植えたいが、20区画全てを別の種類で同時に進行することは難しいと考えており、数カ年に分けて進めていきたい。

・植える苗の大きさも影響する。区画内に密度高く植える方法もあれば、将来の成長を見込んで50cm四方程度に1本ずつ植える方法もある。どちらにするかは考えておくべきである。

・小学校だけでなく、自然学習を取り入れている保育園や幼稚園にも広報するとよい。近年、3歳などの多感な時期に自然と触れ合うことが重要視されている。校長会などを利用するとよい。

・支援学校や作業所など福祉施設の方が、心身の回復を目的として公園を利用されることもある。今後はそのような層に対するアプローチも考えることができるとよい。

＜**協議案件３：公園の評価について**＞

公園の評価について、事務局より説明。

・「つくり続ける」公園である限りは、パーククラブが園路や果樹園を新しくつくり続けることができる場所である。これは公園管理ガイドブックで対応できる内容ではない。公園緑地マニュアルについても反映させた内容でなければ、つくり続ける公園の項目を整理することはできない。

・パーククラブは新しい整備と良好な維持管理と、プログラムの運営という3つの課題に取り組んでいる。そのことがわかる項目を検討すべきである。また、パーククラブの年間計画も反映する必要がある。

・今回の項目は協働部分を中心に整理されているので、府の業務として評価すべき項目についても整理する必要がある。他の指定管理者による公園の運営状況を、府の職員が研修として学ぶこともよいかもしれない。

・従来とは異なり、協働にかかる人員を手配する必要がある。しかし整備段階での協働に対して本庁の理解がなければ、人員の手配も難しい。他18公園との違いを明確にすべきである。

・落石対策については、工法も検討すべきである。植生を残しながら行うのか、ネットなどを用いて行うのか。落石対策をする必要性が本当にあるのかも含めて、検討すべきである。

＜**協議案件４：利用者層の拡大について**＞

・各地域で生涯学習に盛んに取り組んでいる人たちが増えており、屋外でのボランティア活動を望んでいる人たちも増えている。そうした人たちが集まる場所にも情報を提供するとよい。

・写真の撮影講習なども人気を呼ぶ可能性がある。写真コンテストもよいだろう。そうすると、普段と違う人たちが公園に足を運んでくださる。

・最近ではDIYや、「林業女子」と呼ばれるように林業に取り組む女性も増えている。女性は整備活動が苦手と決めつけずに、広い視野で検討すべきである。

・今の花壇を作っている園芸品種の上位100種を見ると、そのうち日本の品種は1〜2種類しかない。その他は全て外来種である。これは従来の山野草の中での花づくりと大きく異なる。花苗を考える上では、この違いを認識しておくべきである。

・花壇づくりチームを新設するという場合、コラボレーション区域は自然のままの姿を保つのか、あるいは人の集まりやすい郷の館の周辺には花壇を作るほうがよいと考えるのか。このような点も明確にしておく必要がある。

・竹細工で活用することを見越して、マダケの育成にも取り組むことも考えるとよい。

＜**報告案件１：プログラム報告（１〜２月）**＞

公園全体のプログラムについて事務局より、パーククラブの報告について大家委員より報告。

＜**報告案件２：向井池東側エリアについて**＞

向井池東側エリアの境界柵について、事務局より報告。

＜**報告案件３：企業の森活動について**＞

企業の森活動について、事務局より報告。

・企業の森エリアを対岸から見ると、まだ竹林が厚いためコジイは見えない。しかし伐採した竹はすべて外に出していただけたので、竹の量は随分減っているはずである。

・コジイの周辺に杉やヒノキが数本あり、そのすぐ近くには松が1本ある。対岸からみると、この松の木のほうが目立っている。

・タケノコ掘りイベントに関しては、竹林の育成には3年間ほどかかわらないと意味がないので、可能な限り1回きりではなく継続して参加していただけるよう工夫するとよい。

＜**報告案件４：平成２７年度工事の進捗について**＞

平成27年度工事の進捗について、事務局より報告。

＜**報告案件５：その他**＞

・民活地の整備について、現在は許可申請を事前協議している段階である。現地では泉佐野市の開発要項に基づき看板が設置されたが、その他の作業はまだ進んでいない。埋蔵文化財の試掘調査が必要であり、次回の運営審議会前には着手されている可能性がある。

・向井池に集まるカワウが問題になっていると報告してきたが、最近はまた少なくなっている。大阪府の職員が夜間巡回された影響もあるのかもしれない。ただ明確な対策が見出せておらず、引き続き経過を観察したい。

以上